

令和4年度 研究の方向性について

1 研究主題

学ぶ楽しさに気付く子の育成
－対話的な学びの充実を図る－

2 主題設定の理由

本校は、令和元年度から算数科の研究を行ってきた。昨年度は、「算数のおもしろさに気付く子の育成－数学的に表現し、伝え合う活動を通して－」を研究主題として、身に付けさせたい力を明確にもち、児童の数学的表現を育て、伝え合いつながら合い学ぶ授業づくりに取り組んだ。操作活動を行うなど体験活動を取り入れたり、生活経験と結び付けたり、友だちとの考えを交流したりすることにより、算数のおもしろさや学ぶ楽しさに気付く児童が増えたことは、大きな成果である。

そこで、今年度は、算数科での取組を他教科へと広げ、さらに児童が「学ぶ楽しさ」に気付くことができればと考え、上記の研究主題を設定し、研究を行うこととした。「〇〇の授業は楽しい」「友達といっしょに考えるのは楽しい」「分かる、できることは楽しい」と児童が思える授業づくりを目指す。そして、学ぶ楽しさを味わう授業を積み重ねることにより、考える子を育みたい。自己との対話、他者との対話、教材との対話、既習事項・今後の学習との対話など、様々な対話を通して、児童の考えを深めさせ、学ぶ楽しさを味わわせていきたい。

3 研究の重点

- (1) 授業づくりの工夫
- (2) 学級づくりと授業づくりの一体化
- (3) 授業研究と事前、事後授業研究会の工夫
- (4) 学ぶ環境作りの工夫